

令和3年度 関西福祉科学大学高等学校 学校運営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- ・建学の精神「感恩」の実践、校訓「明朗・友愛・誠実」を生かした人間力の育成。
- ・夢と志を育てる教育プログラムを実践。元気、やる気が出て夢中になるものを見出す。
- ・基本的な生活習慣を身につけ、優れた教養と学力を備えた生徒を育てる。
- ・感謝の心を持った豊かな情操を育み、自立心のある人の育成を図る。

2 中期的目標

1 教育の質向上

- (1) 授業の質向上、学修成果の可視化(〇〇ができるようになる)
 - ・わかる授業ときめ細やかな学習指導の実践
 - ・授業アンケートや公開授業等を活用し、授業の質の向上を目指す。
 - ・ICT機器(教室にある電子黒板機能付きのプロジェクター)やICT教室を活用し、より「わかる授業」の実践を進める。
 - ・3時間/週の授業外学習100%を目標に学習習慣の定着を図る。
- (2) 卒業率96%以上
 - ・入学した生徒全員を卒業させるためにも、高校生活満足度調査の結果を検証、今後の課題を検討し、改善策を全体で共有する。
- (3) 教員のスキルアップ
 - ・教科の研修やICT機器の活用、外部模試の活用方法、生徒のやる気をいかに持たせるかなど学内外を問わず、様々な場面、機会を通じて研修を進める。
- (4) 進路実績の向上
 - ・特別進学Iコースを中心に、特別進学IIコースからの合格者も含め、関関同立20名と産近甲龍50名(延べ数)の合格を目指す。
- (5) 課外活動・クラブ活動の充実
 - ・課外活動を充実させ、昨年度のクラブ入部率52.7%を70%以上となることを目指す。
- (6) グローバルな視点での教育の実践
 - ・異文化理解、人権、平和などのテーマを通して、世界規模で物事を考える発想を身につけさせる。

2 組織安定

- ・教育力の向上と積極的な広報活動により、生徒数1000名を堅持できるように努める。

3 教育環境の充実(安全 安心 快適 ECO)

- (1) 校内生活および学習環境の整備
 - ・新校舎での生活がスタートし5年目を迎え、整備された学習環境を積極的に活用する。
 - ・学園食堂「Tama Café」メニュー・販売時間、憩いの場「Tama Square」の有効活用(学生・生徒が、使い易く居心地の良い「快適空間」を目指す)。
 - ・人工芝グラウンドの積極的な活用(夜間照明の設置)。
- (2) 生徒の自主的な活動によるエコの実践
 - ・生徒会との協働作業によるエコ活動の実施。
- (3) 施設愛用の活用(遊休施設の復活再生)・立教館活用

4 地域共生 社会に愛され成長する学園

- (1) 地域貢献活動の実践
 - ・全校生徒を対象とした地域周辺の美化活動の実践を継続する。
 - ・市民フェスティバル、交通安全啓発運動など地域主催行事へ積極的に参加する。
- (2) 地域連携公認プログラムの推進
 - ・地域連携公認プログラム「歴史・科学の青少年講座」、「卓球・バレーボール・サッカー教室」(通年)を地域の子どもたちが多数参加できるように継続して実施する。

5 学園総合力の向上(学園ファミリー意識)各校園(職員)の相互協力 尊重

- ・併設の大学、短期大学、幼稚園との連携を密にし、学園総合力を向上させる。

- (1) 内部進学の実績と促進(学年30%以上目標)
 - ・具体的には大学、短期大学との連携で進路意識を高めるプログラムを実践する。
- (2) 子息子女兄弟姉妹の入学促進
- (3) 併設校園との連携教育の推進
 - ・保育進学コースについては、短期大学教員による週1時間の保育に関する知識、技能を身につける授業を実施する。
 - ・併設幼稚園では、複数回保育実習を実施する。
- (4) 創立80周年(2022)記念事業の推進チャレンジ
- (5) 藤蔭会活動の活性化(80周年(2025)記念行事の推進)

3 本年度の取組内容及び自己評価

	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	学校自己評価	学校関係者 評価委員会 の評価
1 教育の質向上	(1)授業の質向上	(1) 年度当初に各教科・各授業に対し「年間授業計画」を作成する。教科内で確認の上、教務、管理職でも確認のもと授業を進める。各学期終了後、実施内容、進捗、考查結果の状況など確認し、次学期に役立てる。 ・授業アンケート(7月:1学期期末考查後実施)の結果を基に各教員、教科内で検証「わかる授業」の実践に取り組む。 ・学外のICT研修などにも積極的に参加し、公開授業を通し、内容を教科で共有する。 ・3時間/週の授業外学習100%を目標に学習習慣を定着させ、学力向上に繋げる。	(1)授業アンケートの総体平均値が75点となること。 ・3時間/週の授業外学習を100%定着させること。	(1) 授業アンケートでの平均が80.2点(昨年度78.1点、一昨年度76.9点)年々平均値は上昇している。ICT機器を使った授業は広がりを見せ、教員個々が創意工夫をして授業が展開されている。(○) ・授業外学習3時間/週(1日平均30分以上)している生徒は、59.3%(昨年度57.0%、一昨年度60.9%)であった。進路、教科による組織的な取り組みが必要。(△)	充分評価できる。(○) 小テスト、宿題の他、家庭にも呼びかけるなど工夫が必要である。(△)
	(2)卒業率96%以上	(2) 卒業率96%以上を実現する。 ・高校生活満足度調査(10月:2学期中間考查後実施)については、職員会議で結果を報告の後、関係部署で検証し、今後の課題を検討、改善策を全体で共有する。	(2) 卒業率96%以上を実現する。 ・「学校生活の充実度」の肯定的回答率が65%以上であること。	(2) 卒業生は385人(入学時413人)、卒業率は93.2%であった。(昨年度卒業率93.0%) (△) ・「学校生活の充実度」の肯定的回答率70.5%(昨年度69.9%、一昨年度62.0%)で上昇傾向にある。(○)	卒業率向上のため努力に期待する。(△) 生徒が充実できる学校生活を送っていると判断できる。(△)
	(3)教員のスキルアップ	(3) 教科の研修やICT機器の活用、外部模試の活用方法、生徒のやる気をいかに持たせるかなど学内学外を問わず、様々な場面、機会を通じて研修を進める。	(3) 教科の研修、外部模試活用研修、人権研修など実施すること。	(3) コロナ禍が続き、思うような研修はできなかったが、Classiの活用やZoomによる遠隔授業の経験を重ね、全教員のICTスキルは着実にアップしている。(△)	良好と評価できる。(○)
	(4)進学実績の向上	(4)進路指導部を中心に進路指導計画を策定の上、各教科学年との連携を基に指導を行う。	(4)卒業生徒の進路決定率100%。 ・関関同立20名と産近甲龍50名以上の合格(延べ数)。	(4) 進路決定率98.2% (△)(昨年度97.7%、一昨年度98.1%) 関関同立8名合格 (×)(昨年度2名、一昨年度5名) 産近甲龍56名合格 (○)(昨年度20名、一昨年度50名) 難関大学の合格者をどう増やすか。戦略的な取り組みもを検討。	生徒の満足する進路決定と進学率の向上を期待する。(△)
	(5)課外活動・クラブ活動の充実	(5)生徒会と各クラブが連携し、クラブ紹介の方法を回数も含め工夫する。また積極的にクラブ体験を受け入れるようにする。 ・生徒会行事について見直しをすすめ、生徒会担当教員で検討の上充実させる。	(5)クラブ入部率70%以上であること。	(5) 文化系、運動系共にコロナ感染に対応した活動制限が続いた。クラブ入部率52.4%(昨年度52.7%、一昨年度50.7%) コロナ禍のなかでも順調に推移している。(△)	入部率の向上に努力が必要である。(△)
	(6)グローバルな視点での教育の実践	(6)英語検定を積極的に受験させる。 ・異文化交流や異文化理解できる行事を検討する。	(6)英語検定を積極的に受験させる。 ・総合的な探究の時間に異文化理解の講座を設ける。	(6) 年間受験者533名 2級合格15名 準2級合格31名 (△) (昨年受験者246名 2級合格5名、準2級23名合格 一昨年度511名 2級合格11名、準2級38名合格) ・海外青年協力隊の方の講演会やグローバル体験プログラムなどを実施。(△) 生徒会では文化祭においてユニクロの「服の手コラボプロジェクト」に参加し、全校生徒に古着の提供を呼びかけた。(○)	新たな取り組みなどが評価できる。(○)
2 組織安定	組織安定	・入試広報部と運営委員により構成される「入試委員会」で対外的な募集・広報活動計画と校内における入試説明会、体験入学のプランを策定し、全教職員で内容を共有する。	・入試説明会、体験入学の参加人数が昨年度の2263名を上回ること。 ・新生入生350名、生徒総数1000名を堅持すること。	・令和3年度の学校・入試説明会、体験入学の参加人数は、計2545名(昨年度2263名) 昨年度に続き予約制をとり可能な限り通常に戻したが、昼食の提供を中止して実施した。(○) ・令和4年4月の生徒総数は997名(昨年度1066名 一昨年度1127名) 新生入生344名(昨年度304名、一昨年度383名) 入学者は幾分持ち直したが総数1000名に到達せず。(△)	良好と評価できる。(○) もう少しの努力を期待する(△)
	(1)校内生活および学習環境の整備	(1)「Tama Square」でのクラブ発表などを促進する。 「立教館」の活用促進。	・活用の状況	・吹奏楽部の「お花見コンサート」、ギター部・ダンス部の「ゲリラライブ」を複数回実施。さらに吹奏楽部は「Front Square」でのオープニングセレモニーにも参加。(○)	活発な取り組みが評価できる。(○)
3 教育環境の充実	(2)生徒の自主的な活動によるエコの実践	(2)生徒会との協働作業によるエコ活動を実施する。	・エアコン夏25℃、冬22℃に設定	・教職員の意識改革と生徒会を中心とした全校生徒への働きかけが必要。(△)	エネルギー問題に目を向ける努力が必要である。(△)

4 地域共生	(1)地域貢献活動の実践	(1) 生徒会美化委員会が主催する、本校の伝統である「美化ボランティア」清掃活動を今年度も実施する。1回目は全校生徒(希望者)対象で6月上旬実施、2回目は学年毎に1年(9月)、2年(11月)を予定する。	(1)計画通り実施する。	(1)コロナ禍によりすべて中止。(一)	コロナ禍でも工夫できると思われる。(×)
	(2)地域連携公認プログラムの推進	(2)地域と連携し、青少年講座・スポーツ教室を実施。 ・歴史・科学の青少年講座を実施する。 ・卓球・バレーボール・サッカーのスポーツ教室を実施。 ・地域の市民フェスティバルに参加する。	(2)予定通り参加する。	(2)コロナ禍によりすべて中止。(一) ・柏原市歌を吹奏楽部が演奏してCD化。市役所での贈呈式で披露した。(○)	
5 学園総合力の向上	(1)内部進学の実現と促進(学年3割以上目標)	(1) 学園内大学・短期大学入試ガイダンスを実施する。 ・PTA主催併設大学・短大見学会を実施する。	・併設大学・短大への進学者100名以上。	・併設大学・短大への進学者数90名(昨年度105名、一昨年度76名)(△)	大学・短大と連携を深め相互努力が必要である。(△)
	(2)子息女兄弟姉妹の入学促進	(2) 日常の教育活動を通して、本学園のファンを増やす。		・PTA主催併設大学・短大見学会は規模を縮小して実施。(○)	
	(3)併設校園との連携教育の推進	(3) 大学・短大・幼稚園と連携し、担当者会議を行い、これまでの取り組み内容をベースに、課題や改善点を見だし、より良い取り組みを作り上げる(保育進学コース授業、保育実習など)。	・実施内容と生徒の満足度を基準とする。	・1年保育実習は幼稚園との相談を重ね工夫して実施することができた。(○) ・キッズフェスタは中止。	良好と評価できる。(○)
	(4)創立80周年記念事業の推進チャレンジ	(4) 各校園80周年ワーキングチームを中心に検討する。		・日程、内容、各校園の役割分担などを決定。(○)	良好と評価できる。(○)
	(5)藤蔭会活動の活性化(80周年記念行事の推進)	(5) 係教員と藤蔭会で検討を進める。			

4 学校教育自己診断の結果と分析

学校教育自己診断の結果

(1)建学の精神、校訓

- ・高い評価の項目
「建学の精神『感恩』が教職員によく理解され、日々の教育に活かしている」(教員 91.1%)
- ・低い評価の項目
「校訓『明朗 誠実 友愛』が保護者によく理解されている」(教員 55.6%)

(2)学習・進路

- ・高い評価の項目
「進路資料閲覧室は十分に活用されている」(教員 91.1%)
「生徒が希望した進路におおむね進んでいる」(教員 88.9%)
「進路指導面で、学校は保護者へ、きめ細かく情報を提供している」(教員 84.4%)
- ・低い評価の項目
「進学補講の参加者は熱心に参加している」(教員 73.3%)
「外部の模擬試験のデータを進路指導に役立てている」(教員 71.1%)
- ・令和3年度の3学期にも休校期間があったが、Zoom授業へも比較的スムーズに移行でき、生徒たちの「学び」を止めることはなかった。

(3)課外活動・クラブ活動

- ・高い評価の項目
「生徒会活動は活発に行われている」(保護者 90.9% 教員 88.9%)
「文化祭、体育祭で担任は適切な指導を行っている」(保護者 100% 教員 93.3%)
- ・コロナ禍でやむなく中止をする学校が多い中、生徒会を中心に創意工夫を凝らして文化祭・体育祭を実施することができた。校外学習、修学旅行も中止し、クラブ活動も制限された現状で開催できたことは、教育活動において大いに意義あるものであった。

(4)生徒指導・教育相談

- ・高い評価の項目
「制服の着用、頭髪等身だしなみを整えるよう指導を徹底されている」(保護者 100% 教員 88.9%)
「生徒指導において、家庭と緊密な連携が出来ている」(保護者 100% 教員 95.6%)
「問題行動防止のための早期指導(個人面談、HR指導、初期対応など)に学校は熱心に取り組んでいる」(保護者 100%)
「問題行動が生じたときの指導体制が整備されている」(教員 88.9%)
- ・今後も家庭との連携を大切にし、面倒見の良い教育を実践していく。

(5)情報公開

- ・高い評価の項目
「本校はホームページ・Classiで保護者の知りたい情報を発信している」(保護者 100%)
「学園広報、PTAだより、まがたま(年間2通)を保護者はよく見ている」(保護者 100%)
- ・低い評価の項目
「保護者に子どものクラスの授業を公開している」(保護者 45.5%)
- ・全体的な情報公開について
PTA総会の日に授業参観を実施しているが、今年度もコロナ禍により総会が中止。塾対象説明会では授業を公開できた。授業参観を通して、学校や子どもの教育に関心を持って頂き、連携して教育活動を進めていきたい。
令和3年度は重点課題の1つとして、迅速なホームページによる内外への情報発信に取り組んできた。
Classiは導入2年目となり、情報伝達ツールとしての利用は広がってきている。今後は他のClassi機能にも目を向け、更に有効に利用することを考えていきたい。

(6)施設・設備・その他全般

- ・高い評価の項目
「施設・設備は充実している」(保護者 100%)
「教員はチームワークがとれており、どの教員も一貫した対応をしてもらえる」(保護者 100.0%)
「どの教員も相談しやすく、誠実に対応してくれる」(保護者 90.9%)
「子どもをこの学校に入学させてよかった」(保護者 100.0%)

5 学校関係者評価委員会からの意見

【評価された内容】

- ・授業アンケートの平均点が高得点にも関わらず年々上がっているところには、先生方の相当な努力と工夫が感じられる。
- ・「学校生活の充実度」の肯定回答率が伸びているところは喜ばしい。
- ・制服の着こなし、身だしなみは、年々良くなってきていると感じる。
- ・学園には共有の広場ができてきている。高校生の憩いの場、発表の場としての活用は非常に良いと感じている。特に Tama Square は高校の前なので、他校園の人たちもどんどん使って活動してほしい。学園が活気あふれて明るい学園であることを願っている。
- ・本校を卒業した複数の母親から、「ファミリー奨学金の制度は非常にありがたい。おかげで子ども2人とも本校に通わせることができた。」とよく聞く。

【改善が必要な内容】

〈登下校〉

- ・登下校時、自転車通学者が横並びで通行しているのをよく見かける。歩道では前から迫ってくるので怖く感じる。車道では車が通れず停止している場面をよく見る。特に下校時のクラブ帰りで暗くなっているときは非常に危険である。

〈制服〉

- ・制服の衣替え時期について、近年の気候変動、暑さ寒さを感じる個人差があるので柔軟に対応できないか。暑いのにブレザー着用を強要されるのはどうか、という意見を外部の人からよく聞く。
- ・授業の最初と最後だけブレザー着用というルールには疑問を感じるという声を聞く。それを毎時間繰り返している。朝、家を出るときだけ寒いのでブレザーを着て登校したが、昼間は着ることがない。生徒たちは大変だという思いをしている。

〈学習〉

- ・家庭学習の定着にもっと力を入れるべきだと思う。
- ・英語検定を積極的に受験させる工夫を考えるべきだと思う。
- ・小中学校では1人1台の端末を使用した授業を行っている。高等学校でも端末を使った時代にふさわしい学習に取り組み、これまでとは違った能力を身に付けさせる必要を感じている。

〈行事〉

- ・修学旅行は一生の思い出になるので、どんな形になっても行けるようにしてほしい。
- ・高校でのイベントについて、Tama Square でのゲリラライブやたそがれコンサート、お花見コンサートなど、外部にも告知して、外部の人も観覧できるようにしてほしい。
- ・コロナ禍であっても工夫して美化ボランティアはやってほしい。地域住民は高校生の活動に感謝し、よく話題にしている。

貴重な意見を参考にさせて頂き、保護者や地域の方々の協力も得ながら、教職員全員で課題改善に向け努力して取り組んでいきたい。